

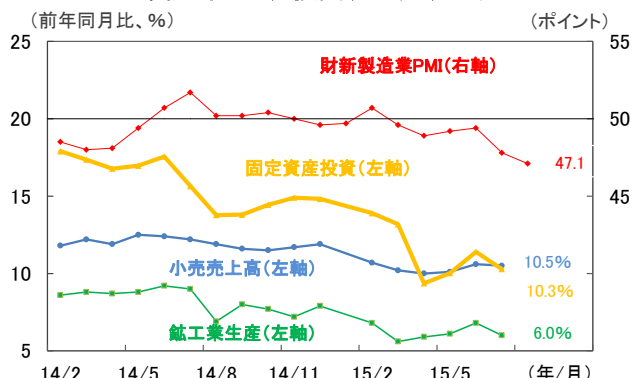
## 今日のトピック 最近の指標から見る中国経済(2015年8月)

# 景気減速懸念が強まり、追加対策への期待が高まる

### ポイント1 景気減速懸念強まる 製造業PMIが2カ月連続低下

- 7月の固定資産投資(除く農村部)の前年同月比は前月から低下しました。生産も低下し、景気の減速懸念が強まりました。さらに、8月の財新製造業PMIが市場予想を下回り2カ月連続で前月から低下、景気減速懸念が一段と強まりました。
- 7月の小売売上高は、小幅に鈍化したものの、飲食業やオンライン消費などが比較的堅調で、概ね安定した動きでした。

製造業PMI、投資、生産、小売

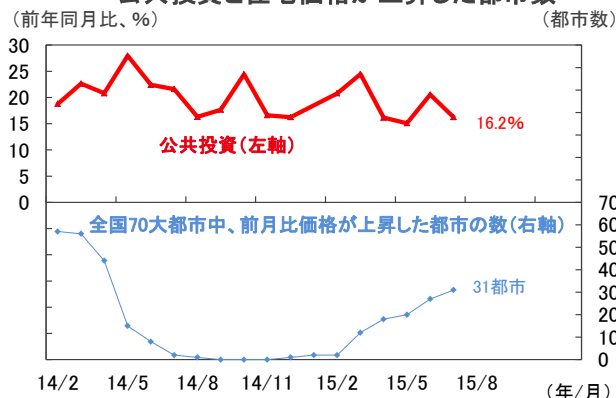


(注) 財新製造業購買担当者指数(PMI)は、2014年2月～2015年8月。それ以外は、2015年7月まで(2015年1月は未公表、2月は1-2月累計)。数字は直近月。製造業PMIは50が好悪の判断の境目。  
(出所) 中国国家统计局、Bloomberg L.P、CEICのデータを基に三井住友アセットマネジメント作成

### ポイント2 公共投資は比較的堅調 住宅価格上昇の都市数は増加

- 全国70の大都市の統計では、半数近くの都市で住宅価格が上昇し、住宅価格が前月比上昇する地域も拡大しています。住宅需要が徐々に回復していることを示唆していると見られます。
- また、公共投資の伸びは投資全体の伸びを上回り、比較的堅調です。都市部での配管や通信ケーブル収納のための地下パイプライン建設推進や地下鉄などの都市交通整備などの公共投資が景気の下支え役になっています。

公共投資と住宅価格が上昇した都市数



(注) データは2014年2月～2015年7月(公共投資の2015年1月は未公表、2月は1-2月累計)。公共投資は、固定資産投資の内訳項目のインフラ関連投資。  
(出所) 中国国家统计局、CEICのデータを基に三井住友アセットマネジメント作成

## 今後の展開 追加の政策対応が期待され、景気底割れは回避へ

- 8月11日に人民元が突然切り下げられたことから、中国が内需中心の景気刺激策を転換し、輸出のテコ入れのため通貨切り下げに動いたとの見方が金融市場に広がりました。ただし、輸出拡大を狙った大幅な切り下げは国際社会で受け入れられないことは中国政府・当局も理解していると見られ、人民元の切り下げは段階的に行われると見込まれます。

- 中国政府は、過去の反省から大型の財政支出による景気対策には消極的です。今後もこの方針は継続される見込みで、インフラ整備、環境対策、市場化推進など、成長力の引き上げに必要な政策発動を積極的に行うと見られます。追加の金融緩和も期待され、年後半に向けて、景気の下振れ懸念が次第に薄らぎ、中長期的な安定成長へと向かう展開が見込まれます。

ここも  
チェック! 2015年08月24日 世界同時株安と日本株の見通し  
2015年08月17日 中国の「通貨制度」(中国)

■当資料は、情報提供を目的として、三井住友アセットマネジメントが作成したものです。特定の投資信託、生命保険、株式、債券等の売買を推奨・勧誘するものではありません。■当資料に基づいて取られた投資行動の結果については、当社は責任を負いません。■当資料の内容は作成基準日現在のものであり、将来予告なく変更されることがあります。■当資料に市場環境等についてのデータ・分析等が含まれる場合、それらは過去の実績及び将来の予想であり、今後の市場環境等を保証するものではありません。■当資料は当社が信頼性が高いと判断した情報等に基づき作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。■当資料にインデックス・統計資料等が記載される場合、それらの知的所有権その他の一切の権利は、その発行者および許諾者に帰属します。■当資料に掲載されている写真がある場合、写真はイメージであり、本文とは関係ない場合があります。